

早稲田大学 教育学部 現代文 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	国語 60分
特徴・その他	標準的な素直な設問が多い。レベル的には例年通り。二問とも実力がそのまま反映される良問である。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
(一)	長文読解問題 (労働の意味について)	問二が多少難しいが、あとはきわめて素直な設問ばかりである。ヒッカケということを考えずに、本文に沿って考えていけば、この大問は高得点がとれる。	標準
(二)	長文読解問題 (〈ことば〉と〈もの〉の関係について)	問八が少々迷いやすいが、本文の論理をていねいにたどっていけば、正解にたどりつく。問十、十二は単語力を聞く問題だが、それほど難しくはない。この大問も、高得点をとることが可能だ。	標準

〔総合コメント〕

二問とも、先入観にとらわれず、本文の内容を着実に把握していくようにしていけば、それほど難しくはない。ただ、問二は、ある程度のレベルの単語力を持っていないと、本文にも設問にも対応しにくい。その意味では、日頃の地道な準備が必要である。そのためには予備校で良質な早大レベルの授業を受けるようにするとよいであろう。